

自分の考えや気持ちをまとまりのある英文で表現できる生徒の育成

～伝えたい！と思える表現活動を通して～

特別研修員 外国語 田邊陽子（中学校教諭）

生徒の実態

- まとまりのある文を書く力に弱さが見られる
- じっくり自分の気持ちを考え、表現する機会が少ない

書きたい！話したい！と思える場を設定してみよう



書きたい！話したい！と思える場面設定

STEP 1 書くテーマの設定（生徒の実態・学校行事・生活に関わる）

実践①「東京旅行の計画案」
ALTの東京旅行の観光ルートをグループで考える



東京差別で行ったから
書きやすそう！

実践②「将来の夢」
20歳の自分にあてたビデオレターを作成する



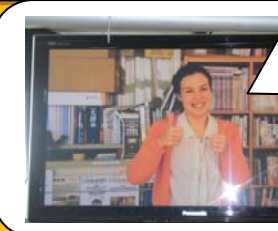
20歳の自分へ向けて
書いてみたいな！

STEP 2 モデル文の提示（拡大版・ALTとの会話・実際のビデオレター）

情報を聞き出すためのモデル
JET: What are you interested
in about Tokyo?
ALT: I'm interested in
beautiful view!



将来の夢について ALTのモデル
Hello! I want to be an English
teacher. I like to study
languages. In the future, I
want to teach English in Japan.

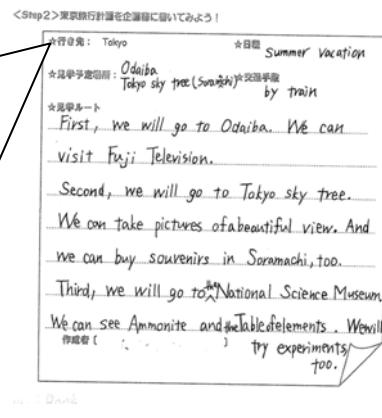


STEP 3 段階的に書く活動から話す活動への工夫（ワークシート例）

ALTに向けた発表① （6月実施）

発表した内容

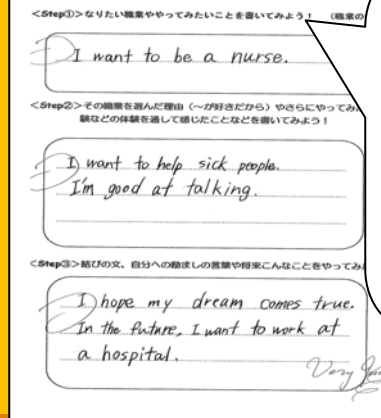
- ・見学場所の選定
- ・おすすめのおみやげ
や食べ物の紹介
- ・ALTの興味あること
も考えたプラン



20歳の自分へ向けて のビデオレター作り② （11月実施）

伝えた内容

- ・なりたい職業
- ・なりたいと思う理由
- ・将来やりたいこと



成果 と 課題

- 書きたい！と思えるテーマ設定やモデル文の提示により、生徒は自分たちが行きたい場所や将来の夢についてまとまりのある英文で書くことができた。
- 話したい！と思えるテーマ設定では、ALTに伝える、20歳の自分に伝えるというように相手を意識させ、目指すゴールを明確にすることにより、生徒が英語を話そうとする気持ちを高めることができた。
- 伝えたいことを書き、話すためには3年間を見通した帯学習が必要となる。書いたことを発表していくためには教師側の丁寧な添削や音読練習も必要である。